

【報 告】

**イベントと連携した英語力強化カリキュラム——
発表力、表現力増強のための英語ミュージカル教育プログラム開発
平成 23 (2011) ～ 25 (2013) 年度和洋女子大学教育振興支援助成成果報告**

高久田佳津子

**Report of Language Theatre Project supported by Wayo Women's University
Grand-in-aid for the Promotion of Education**

Katsuko TAKAKUDA

要旨

2011年度から3年間、英語・英文学類で行った「英語ミュージカル」を通じて英語力の向上、英語による発信力の強化に向けた教育を行った。このプロジェクトは、2010年秋に行った英語教育に対してのイベントに関するアンケートで全学の学生が興味を示した(30%)「英語ミュージカル」を、通常の授業カリキュラムと関連づけた英語教育プログラムとして完成させることを目標としている。英語・英文学類所属教員は、文化、文学、言語というそれぞれの専門に合わせてこのプロジェクトに係わり、ミュージカル公演、佐倉基礎演習、通常授業の3つを機能的に連結させる試みを行った。通常授業である「アドヴァンスト・リーディング」、「文学と音楽」などの授業をプログラムに合わせて強化し、さらに「ミュージカル英語」のクラスを増設した。このプロジェクトは、英語の4技能を総合的に獲得する、つまり「人間の言葉」としての英語力を獲得する取り組みである。活動は、①テキスト製作、②佐倉セミナー、③里見祭でのミュージカル上演の3つに大きく分けられ、それぞれ当初の目的が達成された。題材として、『ウェスト・サイド・ストーリー』(2011年)、『マイ・フェア・レディ』(2012年)、『サウンド・オブ・ミュージック』(2013年)を選び、教育効果としては、①共同作業による学習意欲の増進、②自己アピールに必要な知識の獲得、③教養力のアップの3つのレベルで効果が認められた。

キーワード：英語教育プログラム、英語ミュージカル、ランゲッジ・シアター

English language teaching program, Musicals, Language Theatre

1 プロジェクトの目的

英語・英文学類においては、英語力獲得教育の為の実践的な「ランゲッジ・シアター」構想を打ち出した。英語圏の言語、文学、文化を総合的に学び、幅広い教養を基盤とした言語能力獲得を教育目標とする。特に、学習者の興味とその表現能力、外部発表能力を開発するため、通常の英語学習授業と各種のイベントを連携させた英語教育プログラムの開発を研究・実践している。本プロジェクトは、この「ランゲッジ・シアター」構想を増強し、「人間の言葉」としての英語力を獲得するカリキュラム作成を目的としている。

2010年秋に行った英語教育に対するイベントに関するアンケートで全学の学生が興味を示した(30%)「英語ミュージカル」を、通常の授業カリキュラムと関連づけた英語教育プログラムとして完成させることを目標としている。英語・英文学類の学生ばかりでなく、全学の学生の為の英語教育カリキュラムにも反映させていくことを視野に入れた英語力獲得プログラムである。

2 取組内容の概要

ミュージカル公演、佐倉基礎演習、通常授業を機能的に連結させる。通常授業に「アドヴァンスト・リーディング」、「音楽と文学」その他のクラスなどをプログラムに合わせて強化し、さらに「ミュージカル英語」のクラスを増設した。これらは、英語の4技能を総合的に獲得することを念頭に置いた、「人間の言葉」としての英語力獲得カリキュラムである。所属教員は、文化、文学、言語それぞれの専門に合わせて配置した。

また、助成金により、1006教室の教育環境を整備(照明、カーテン、手動スクリーン)し、共同研究のテキストを制作した(『ウェスト・サイド・ストーリー』(2011年)、『マイ・フェア・レディ』(2012年)、『サウンド・オブ・ミュージック』(2013年))。

これらのテキストをもとに、準備授業と佐倉セミナーでの授業・実演、さらに、全学に配役を募集し、課外ワークショップを通じて全編上演に向けて、学生を指導し、里見祭で上演した。

上記の活動は、①テキスト製作、②佐倉セミナー、③里見祭でのミュージカル上演の三つに大きく分けられる。それぞれどこまで目的が達成できたか述べ、最後に総括する。

①テキスト製作

従来佐倉セミナーでのテキストは市販のものに頼り、それを各教員が割当部分をアレンジする形で使用しており、統一がとれていなかった。今回のプロジェクトでは、全教員が共通して使用できる和洋用のテキストを製作することができた。テキストは、佐倉セミナーでのグループ数に応じ、上演時間を考えて製作した。また、学生のレベルに応じた注を作成し、あらすじ、配役説明などを加え、自習できる形のものを製作した。

佐倉セミナーテキスト3年分表紙



②佐倉セミナー

9月の佐倉セミナーでは、それぞれの作品のDVDを見て、ストーリーを理解させる事前学習を行った。各年度の取り組みとしては、2011年度は、音声、とりわけ音楽を通じて英語を学ぶ面を強調し、表象を活用した英語教育で高名な佐藤良明氏を講師に、また作曲家の久保田翠氏を招いて講義を行っていただいたところ、英語のリズムについて学生の興味をかき立たせることができた。2012年度は、文学座の今井朋彦氏の「体を使うワークショップ」により演技指導を受けることができ、また2013年度は、オフ・ブロードウェイ演劇でミュージカル俳優経験のあるGrow氏がミュージカルの音楽についてスライドを使った講演を行い、また歌唱指導を受けることによって「人間の言語」として英語を獲得するための教養と専門知識を養うことができた。また、前述テキストをもとに、本学日本人講師とネイティブ講師が連携した効果

的な教育をセミナーで行うこともできた。

③里見祭での上演

全学から募集した学生を中心に1時間半程度の全編上演を音響、照明なども用いて総合的な舞台上演として10階資料室（1006教室）で行うことができた。学生の指導にあたっては、すべて課外指導となるので、スケジュールの調整がむずかしかったが、熱心な学生が参加しており、歌、踊り、台詞ともすべてマスターした上演が行えた。上演については、DVDに収録し、今後の資料とすることができた。

[まとめ]

テキスト製作では、佐倉セミナーを念頭にしたテキストが製作できたが、最終的には通常の英語の授業でも使えるように、10パートくらいに分けたものを製作したい。また、ミュージカルを通じた英語指導という観点では、せりふと仕草をマスターできた学生の英語への関心度や表現力の大きな進展がみられた。指導では、最初に英語から入り、日本語の意味、その上で台詞を覚え、演技するという形をとり、生きた英語の修得という英語教育を実践できたが、その効果は、モチベーションと練習時間に大いに依存しているため、今後効果的な指導法を考えていくことが課題となる。

3 教育の成果

現在、英語力を示すひとつの指標として、就職時に企業も参考にするTOEICの点数がある。英語・英文学類の学生のTOEICの点数としては、最高720点程度から最低320点程度という広範囲の分布がみられる。こうした広範囲に分布する学生の英語力をふまえ、本学類の英語教育プログラムのなかで成功している分野は、「読む力」と「聞く力」である。文学作品を原書で読める学生も多く育っている。本プログラムは、「読む力」と「聞く力」を補強するプログラムとして考案されている。さらには、本学の学生の内向的な資質の良さを保ちつつも、必要に応じて、積極的に自己をアピールすることの育成も目指し、ミュージカルによる英語力の向上、英語による発進力の強化にむけた教育をおこなうことを目標とした。

上記の教育には3つのレベルの効果が認められた。

- ①共同作業による学習意欲の増進——ひとりひとりが総合舞台芸術であるミュージカルに関わることで、グループとしての英語力の増強をはかることができた。
- ②自己アピールに必要な知識の獲得——学んだ英語や知識を演技や歌を通じてアウトプットすることで、英語力や知識を定着することができた。
- ③教養力のアップ——「人間の言語」として英語を獲得するための教養と専門知識を養うことができた。

それぞれの上演は、里見祭の1日目に行われた。2011年度にはアメリカの移民問題を取り入れたといわれるストーリーとバーンスタインの音楽に魅了される『ウェスト・サイド・ストーリー』を上演した。2012年度は、ロンドンの下町に住む花売り娘を完璧な上流階級の英語を話すレディに変身させる言語学者の物語『ピグマリオン』を原作とした『マイ・フェア・レディ』を第1部と第2部に分けて上演した。2013年度は、ナチスドイツの台頭に伴うオーストリア併合によって祖国を逃れ、アメリカに亡命したトラップ・ファミリー合唱団の物語であり、作品賞及び監督賞を含むアカデミー賞を受賞した『サウンド・オブ・ミュージック』を午前と午後の2回上演した。

どの年度においても、全学で募集した配役や裏方が中心となって、英語・英文学類のほか、日本文学・

文化学類、心理・社会学類、服飾造形学類、生活環境学類の学生が、夏休みも含めてできる限り毎週自主的に集まり、歌、踊り、台詞のマスターを目指すとともに、衣装、大道具、小道具を作成し、照明や音響効果についても熱心に話し合い、公演を成功させた。また担当教員が課外ワークショップを通じて学生を指導し、年を重ねるごとに完成度の高い公演を行うことができた。学生は毎回熱心に話し合い、準備をし、事前にゲネプロを行い、自信をもって本番に臨むことができた。本番では多数の観客を前に、のびのびと演技し、大きな達成感を得た。次年度には先輩が後輩に演技指導、歌唱指導などをするようなつながりも定着した。以下に各公演の様子と練習風景を提示する。

2011年『ウェスト・サイド・ストーリー』



2012年『マイ・フェア・レディ』



2013年『サウンド・オブ・ミュージック』



4 まとめ

英語・英文学類では「英語ミュージカル」を通じて英語力の向上、英語による発信力の強化に向けた教育を2011年度から3年間行ってきた。英語・英文学類所属教員は、文化、文学、言語というそれぞれの専門に合わせてこのプログラムに係わり、ミュージカル公演、佐倉基礎演習、通常授業の3つを機能的に連結させる試みを行った。このプロジェクトは、英語の4技能を総合的に獲得する、つまり「人間の言葉」としての英語力を獲得する取り組みで、その活動は①テキスト製作、②佐倉セミナー、③里見祭でのミュージカル上演の3つに大きく分けられる。題材として、『ウェスト・サイド・ストーリー』（2011年）、『マイ・フェア・レディ』（2012年）、『サウンド・オブ・ミュージック』（2013年）を選び、上記の活動を行った結果として、①共同作業による学習意欲の増進、②自己アピールに必要な知識の獲得、③教養力のアップの3つのレベルで教育効果が認められた。

高久田佳津子（和洋女子大学 人文社会科学系 教授）

（2014年11月11日受付）